

様式第 6 号

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和 6 年 4 月 3 0 日

宮崎市長 清 山 知 憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大字瓜生野 3909-40
名	北地区振興会
	(まちづくり推進委員会)
代 表 者 の 氏 名	会 長 長 友 安 弘
電 話 番 号	0985-41-3512

令和 5 年 4 月 2 1 日付けで交付承認のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第 1 8 条第 1 項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

1 提出書類

- ①事業実施報告・収支決算（見込）書
- ②事業別収支計算書
- ③宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書（決算書添付）
- ④地域まちづくり推進委員会備品管理台帳の写し

(様式第 6 号)

令和 5 年度 事業実施報告・収支決算（見込）書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

1 総括

今年度は、予定していた 17 の事業を実施することができた。（残念ながら「第 2 回北のマルシェふれあい朝市」は、前日準備はしたものの、当日、大雨で中止になった）

唯一の新規事業であった「学習支援事業」は改善センター、北地区社協、民生委員の方々、市社協の職員などのご協力により、充実した内容で実施できた。

2 収支決算

（1）収入の部

（単位：円）

項 目	予 算	決 算	差	備 考
基礎交付金	2,145,000	2,145,000	0	
繰越金	780,502	780,502	0	
雑収入	15,541	15,541	0	預金利息 42 円、 売上 15,499 円
合 計	2,941,043	2,941,043	0	

（2）支出の部

分野	事業名	実施年数	予算	決算	差	備考
防	子供見守り事業	15年目	120,000	68,735	▲ 51,265	
防	防災訓練事業	15年目	110,000	16,992	▲ 93,008	
防	北地区青色パトロール推進事業	3年目	40,000	0	▲ 40,000	
福	ふくしま祭り事業	6年目	120,000	61,049	▲ 58,951	
福	福祉推進研修事業	15年目	150,000	50,795	▲ 99,205	
福	子育て支援事業	15年目	60,000	780	▲ 59,220	
福	学習支援事業	1年目	40,000	35,797	▲ 4,203	
福	健康ウォーキング事業	3年目	60,000	47,464	▲ 12,536	
教	北地区文化財・ウォーク事業	15年目	150,000	130,186	▲ 19,814	
教	北地区民俗芸能伝承事業	15年目	100,000	44,720	▲ 55,280	
教	地産地消食育事業	15年目	110,000	69,338	▲ 40,662	
再	イルミネーション設置事業	14年目	160,000	119,057	▲ 40,943	
再	お楽しみクリスマス会事業	4年目	90,000	86,186	▲ 3,814	
再	ふれあい朝市事業	15年目	450,000	320,866	▲ 129,134	
再	特産物育成事業	3年目	95,499	30,000	▲ 65,499	
他	まちづくり推進事業	12年目	655,544	596,136	▲ 59,408	
他	まちづくり広報活動事業	12年目	430,000	348,900	▲ 81,100	
繰 越 金				914,042		
合 計			2,941,043	2,941,043	0	

3 実施報告

[1] 防災・防犯に係わる事業

事業名	子ども見守り事業	実施年数	15年目												
事業期間	開始：21年度	終了：なし													
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 子どもたちの笑い声が聞こえるまちにしよう！ 地区の未来を託す子どもたちの笑い声が聞こえるまちを目指し、誰もが安心・安全に暮らせる、住みたい・住み続けたいまちづくりにより、未来への希望が持てるまちづくりに取組みます。 (2) 地域ぐるみで子どもの成長を見守る！														
目的 (期待される効果)	・学校行事、登下校において、子どもの安全、安心を確保するため、校内外において見守り活動を行う。														
事業内容・手段	(1) 参観日見守りの実施 場所 瓜生野小学校（4回）・倉岡小学校（4回） 内容 参観日等において、小学1、2年生の見守りを行った。 (2) 下校時の見守り活動 自治会毎に「見守り隊」を編成して「北地区子ども見守り隊」の帽子とベストを着用し、危険な箇所での安全確保と声かけを行う。 (3) 実施時期 令和5年4月～令和6年3月														
事業費	68,735円														
対象者	小学生及び幼児（参観日）・小学校（下校時）														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年参観日見守り</td><td>令和5年下校時見守り</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>延 20人</td><td>延 2130人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>延 10人</td><td>(隊員 298人)</td></tr><tr><td>合 計</td><td>延 30人</td><td>延 2130人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和5年参観日見守り	令和5年下校時見守り	一般参加者	延 20人	延 2130人	スタッフ	延 10人	(隊員 298人)	合 計	延 30人	延 2130人
年 度	令和5年参観日見守り	令和5年下校時見守り													
一般参加者	延 20人	延 2130人													
スタッフ	延 10人	(隊員 298人)													
合 計	延 30人	延 2130人													
住民の声（アンケートの結果等）	・親として、大変助かっています。子供が無事に下校できるのが、何よりの安心です。これからも、よろしくお願いします。 ・コロナ禍の行事変更の対応、ありがとうございました。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	A	A	
	②住民の参加	A	A			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	B	（青少協と協力できた）	事業継続の必要性				㊦・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・下校時見守りの時間を「1時間程度」から「30分程度」（低学年中心の見守り）にして、見守り隊員の負担を軽減した。 ・下校時刻の変更については、すぐに自治会長や民生委員に連絡できた。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）>						対応	未・済
		<意見への対応>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）>						対応	未・済
		<意見への対応>							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[1] 防災・防犯に係わる事業

事業名	防災訓練事業	実施年数	15年目
事業期間	開始：21年度	終了：なし	
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 子どもたちの笑い声が聞こえるまちにしよう！ (2) 安全なまちづくり 犯罪や交通事故が起こらない安全なまちづくりを進めるとともに、火災・水害・震災などの災害を未然に防止、災害から地区住民・地区を守る災害に強いまちづくりを進めます。		
目的 (期待される効果)	・突発的な自然災害に備えて避難、誘導、防災器具の取扱い、救急法等の訓練を通して地域防災力の向上を図る。		
事業内容・手段	(1) 各自治会が、地域の実情に応じた訓練を計画実行する。 (2) 計画の段階から宮崎市北消防署および宮崎市消防団北分団と連携し、より効果的な訓練とする。 (3) 実施計画書をまちづくり推進委員会へ提出してもらう。 (4) 今年度は、7つの自治会で防災器具の点検や防災講話や防災訓練を実施した。 (5) 実施時期 令和5年5月～令和6年2月		
事業費	16,992円		
対象者	20の自治会・北地区在住者全員		
参加者数 (内訳)	年 度	令和5年度	令和4年度
	一般参加者	330人	107人
	スタッフ	0人	8人
	合 計	330人	115人
※事業内容に応じて男女別や年代別データ			
住民の声（アンケートの結果等）	・防災機材の点検ができた。 ・南海トラフ地震について、理解できた。 ・防災グッズの確認ができた。 (ヘルメット・ハンドマイク・ライト・リヤカー・担架など)		

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	A	A	〔定例会 広報誌 呼びかけ〕での
	②住民の参加	A	B	参加者が増えた					
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	
	④各種団体との連携	A	A			⑦住民の満足度	A	B	南海トラフ地震に対する関心を高められた。
					事業継続の必要性			㊦・無	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・南海トラフ地震に備えて、災害対策を推めることの重要性をくり返してきたことが良かった。 ・「きたまちだより」（広報誌）でくり返し防災意識を高める広報活動を行った。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未・済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[1] 防災・防犯に係わる事業

事業名	北地区青色パトロール推進事業		実施年数	3年目
事業期間	開始：令和3年度		終了：なし	
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 子どもたちの笑い声が聞こえるまちにしよう！ (2) 安全なまちづくり 犯罪や交通事故が起こらない安全なまちづくりを進めるとともに、火災・水害・震災などの災害を未然に防止、災害から地区住民・地区を守る災害に強いまちづくりを進めます。			
目的 (期待される効果)	・安全で安心な北地区のまちづくりに貢献する。 ・下校時の児童の安全を見守る「子ども見守り隊」と連携を取りながら、犯罪のない明るく住みよいまちづくりを推進する。			
事業内容・手段	(1) 日 時 瓜生野方面通常・毎週金曜日14：55～15：25 倉 岡方面通常・毎週火曜日15：05～15：35 (2) 防犯パトロール講習会 今年度は、実施しなかった。 (3) パトロール場所 それぞれの地区の児童の登下校路 (4) 参加人数 青色パトロール実施し者証を保有する者を中心に7名			
事業費	0円			
対象者	北地区在住者全委員・			
参加者数 (内訳)	年 度	令和5年度	令和4年度	
	一般参加者	0人	0人	
	スタッフ	11人	9人	
	合 計	延 80人	延 90人	
	※事業内容に応じて男女別や年代別データ			
住民の声（アンケートの結果等）	・高齢化した見守り隊の活動を補うために、これから益々重要になりますね。			

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	A	A	
	②住民の参加	B	B			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	B	青少協と連携ができた	事業継続の必要性				⑦・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・見守り隊員と連携できたことやより広範囲に回ることができたこと。 ・パトロール実施者証の取得者を増やすことができた。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未・済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。
 その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[2] 地域福祉に係わる事業

事業名	ふくしまつり事業	実施年数	6年目												
事業期間	開始：平成30年度	終了：なし													
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 子どもたちの笑い声が聞こえるまちにしよう！ (2) 地域ぐるみで子どもたちの成長を見守る 地域ぐるみで子どもたちの成長を見守ったり、お年寄りや障がいのある人を支え合うなど健康で楽しく暮らし続けられるまちづくりを進めます。														
目的 (期待される効果)	・健康の増進や体力の（維持）向上について、測定した各個人のデータをもとにして、具体的な方策を学ぶ。 ・北地区社協と共催することにより、福祉のまちづくり活動を支援する。														
事業内容・手段	(1) 事業の内容＜設けたコーナー＞ ①ワークショップ・布リース・カンナくずフラワー ②釣りっこゲーム・風船ヨーヨー釣り ③健康（ポール）ウォーキング ④電動シニアカー試乗 ⑤血圧測定・健康相談・血管年齢測定・福祉用具展示 ⑥福祉体験 ⑦フリーマーケット ⑧景品交換 ⑨キッチンカー (2) 実施時期 令和5年9月10日（日）														
事業費	61,049円														
対象者	北地区全住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>200人</td><td>0人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>50人</td><td>0人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>250人</td><td>0人</td></tr></table> ※令和3・4年度は中止。			年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	200人	0人	スタッフ	50人	0人	合 計	250人	0人
年 度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	200人	0人													
スタッフ	50人	0人													
合 計	250人	0人													
住民の声（アンケートの結果等）	記入なし														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A			広報	⑤事業の周知	B		
	②住民の参加	A				事業の効果	⑥課題解決への作用	A	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A					⑦住民の満足度	A	
	④各種団体との連携	A			事業継続の必要性				⑦ ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・スタッフが協力的、効果的に作業できた。 ・フリーマーケットのコーナーを設けたが、10店舗の希望があり、好評であった。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[2] 地域福祉に係わる事業

事業名	福祉推進研修事業	実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	(1) 子どもたちの笑い声が聞こえるまちにしよう！ 地区の未来を託す子どもたちの笑い声が聞こえるまちを目指し、誰もが安心・安全に暮らせる、住みたい・住み続け暮らせるまちづくりにより未来への希望が持てるまちづくりに取組みます。 (2) 地域ぐるみで子どもの成長を見守る 地域ぐるみで子どもの成長を見守ったり														
目的 (期待される効果)	・ 地区内の福祉団体や一般の希望者と合同で先進地を訪問し、見守り等福祉活動について研修する。 ・ 防災の施設を見学し、防災意識を高める。														
事業内容・手段	(1) 先進地視察研修の実施 北地区社協と協力して、青少年及び高齢者理解に関する研修を実施 ※法務少年支援センターで行われている支援について研修 ※南九州大学・健康栄養学部の渡邊純子先生の講演を聞き、高齢者の食事等について今後の参考とした。 (2) 内 容 法務少年支援センター 南九州大学 } 見学・研修 (3) 実施時期 令和5年7月27日(木) (4) 広 報 福祉事業連携部会運営委員・民生児童委員 福祉協力委員・福祉ボランティアに案内した。														
事業費	50,795円														
対象者	まちづくり役員・民生児童委員・福祉協力委員・福祉ボランティア														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>15人</td><td>1人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>4人</td><td>25人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>19人</td><td>26人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	15人	1人	スタッフ	4人	25人	合 計	19人	26人
年 度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	15人	1人													
スタッフ	4人	25人													
合 計	19人	26人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・法務少年支援センターでは、職員と問題を抱えた少年少女たちとの間に大変な『心理戦』が行われているんだなと思いました。 ・南九州大学・健康栄養学部の渡邊純子先生のお話は、これまでも聞いたことがあるような内容が多かったが、しっかりと確認できて良かった。特に塩分に関する話は、参考になりました。そのほか、食生活の改善は、ちょっとしたことを変えることで始められるように思いました。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	B	B	
	②住民の参加	A	A			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A		事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・高齢者だけでなく、青少年の理解の一助となった。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[2] 地域福祉に係わる事業

事業名	子育て支援事業	実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	(1) 子どもたちの笑い声が聞こえるまちにしよう！ 地区の未来を託す子どもたちの笑い声が聞こえるまちを目指し、誰もが安心・安全に暮らせる、住みたい・住み続け暮らせるまちづくりにより未来への希望が持てるまちづくりに取組みます。 (2) 地域ぐるみで子どもの成長を見守る 地域ぐるみで子どもの成長を見守ったり、お年寄りや障害のある人を支え合うなど健康で楽しく暮らし続けられるまちづくりを進めます。 (3) 子育て環境の充実 子どもが元気に遊べる公園設備など、子育て環境の基盤となる施設整備を進めます。														
目的 (期待される効果)	・地域の福祉団体と共に、核家族化が進む中、安心して子育てが出来る環境づくりを支援する。														
事業内容・手段	(1) 子育て支援の実施 会場 西部地区農村環境改善センター（和室・小会議室・調理室） 内容 3B体操 家庭で身近な用具を使って親子でできる体操を覚え、楽しく運動できるようにする。 (2) 実施時期 ① 令和5年 6月24日（土） 福祉協力委員・福祉ボランティアに案内した。														
事業費	780円														
対象者	北地区に住所を有する0歳～5歳児（保護者）または北地区出身者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和年5度</td><td>令和4年度（2回）</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>⊕10 ⊖5 計15人</td><td></td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>11人</td><td></td></tr><tr><td>合 計</td><td>26人</td><td></td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和年5度	令和4年度（2回）	一般参加者	⊕10 ⊖5 計15人		スタッフ	11人		合 計	26人	
年 度	令和年5度	令和4年度（2回）													
一般参加者	⊕10 ⊖5 計15人														
スタッフ	11人														
合 計	26人														
住民の声（アンケートの結果等）	<参加者の声> ・今日は、すばらしい1日でした。大人も子供のように跳んだり、はねたり、走ったり楽しかったです。子どもや家族にとって思いやりのある優しい企画だと感じました。 ・初めて参加しましたが、イベントがなくて、ママ友と話す機会もずいぶん減っていたので、すごく有難かったです。有意義な時間を過ごすことができました。 ・とても楽しく参加できました。子どもたちの生き生きとした表情が印象的でした。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	B	B	
	②住民の参加	B	A	連絡が不十分であった		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	B		事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・子ども達が楽しんでいたのはもちろんだが、付き添いの保護者の皆さんの交流も盛んに行われた。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません

3 実施報告

〔2〕地域福祉に係わる事業

事業名	学習支援事業	実施年数	1年目												
事業期間	開始：令和5年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	(1) 子どもたちの笑い声が聞こえるまちにしよう！ (2) 地域ぐるみで子どもたちの成長を見守る。 地域ぐるみで子どもたちの成長を見守ったり、お年寄りや障害のある人を支えあうなど健康で楽しく暮らしを続けられるまちづくりを進めます。														
目的 (期待される効果)	学習支援者（ボランティアの専門学校生や大学生）との交流を通して小学生の学習をサポートする。														
事業内容・手段	(1) 夏休み子供寺小屋の実施 会場 西部地区農村環境改善センター（和室・大会議室・多目的ホール） 内容 夏休みの宿題やわからないところなどを専門学校生や大学生のお兄さんお姉さんに教えてもらう。 問題を解くヒントや課題解決の方法を学びながら、児童の自主性を高める。 (2) 実施時期 ① 令和5年 8月2日（水） ② 令和5年 8月3日（木） 福祉協力委員・福祉ボランティアに案内した。														
事業費	35,797円														
対象者	北地区に住所を有する0歳～5歳児（保護者）または北地区出身者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>小学生 33人</td><td></td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>学生 26 一般 27人</td><td></td></tr><tr><td>合計</td><td>計 86人</td><td></td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	小学生 33人		スタッフ	学生 26 一般 27人		合計	計 86人	
年度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	小学生 33人														
スタッフ	学生 26 一般 27人														
合計	計 86人														
住民の声（アンケートの結果等）	出席した児童の感想（一部） ・お兄さんやお姉さんがやさしく教えてくださったり、この学習会に来て友だちもできたのでよかったし、たのしかったなと思った。 ・大学生のみなさんが、わかりやすくおしえてくれたので、楽しく学習できました。 ・宿題を24ページも終わることができました。ありがとうございました。 ・お兄さんやお姉さんにべんきょうをおしえてもらったり、そのほかのこともおはなしできてたのしかった。やさしくおしえてくれてありがとう。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A			広報	⑤事業の周知	A		
	②住民の参加	A				事業の効果	⑥課題解決への作用	B	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A					⑦住民の満足度	A	
	④各種団体との連携	A			事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・唯一の新規事業であったが、ほぼ満足できるものであった。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません

3 実施報告

[2] 地域教育に係わる事業

事業名	健康ウォーキング事業	実施年数	3年目								
事業期間	開始：令和3年度	終了：なし									
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。										
目的 (期待される効果)	・歩行を楽にする（支援する）ウォーキングポールやノルディックのポールを使用して股関節周りの筋肉や足腰の筋肉を強化し、歩行能力を維持する。										
事業内容・手段	<健康ウォーキング事業の流れ> (1) 西会議室で 開会の言葉 → コーチの説明 → 室内を歩く → (多目的広場を一周して、西会議室に戻る) → 質問や感想を伺う → 資料を渡す → ウォーキングポール購入希望者に購入の説明をする (2) 実施時期 令和5年9月10日（日） 実技講習の流れ ①ウォーミングアップ <table><tr><td>・足首回し</td><td>・つま先立ち</td><td>・片足を前に出す</td><td>・股関節</td></tr><tr><td>・片足を上げて足首回す</td><td>・片足振り</td><td>・片足横振り</td><td>・体幹回し</td></tr></table> ②基本のスタイルをマスターする 遠くを見て、身体が地面から垂直に伸びる感覚でまっすぐ立つ。 片足を足の付け根から前に出し、後ろの足で身体全体を押し出すようにして、かかとから着地。関節を柔らかく使って繰り返す。 ※一人ひとりの健康状態や目的に合わせて、歩くスタイルや道具は替えること。 ※ポールの適切な長さは、身長×0.63 ③多目的広場を一周して、西会議室に戻る（実際に歩く）。			・足首回し	・つま先立ち	・片足を前に出す	・股関節	・片足を上げて足首回す	・片足振り	・片足横振り	・体幹回し
・足首回し	・つま先立ち	・片足を前に出す	・股関節								
・片足を上げて足首回す	・片足振り	・片足横振り	・体幹回し								
事業費	47,464円										
対象者											
参加者数 (内訳)	年 度	令和5年度	令和4年度								
	一般参加者	26人	0人								
	スタッフ	6人	14人								
	合 計	32人	14人								
※事業内容に応じて男女別や年代別データ											
住民の声（アンケートの結果等）	・アンケートなし										

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	B	B	
	②住民の参加	B	B		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A			⑦住民の満足度	A	A	
	④各種団体との連携	A	B	スポーツ推進委員や協力員及び民生委員と連携できた。		事業継続の必要性			⑦ ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・コロナのあと、歩くこと自体の機会が少なくなる傾向にあるので、外出の基本である歩く楽しさを実感し、精神的にもプラスになった。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[2] 地域教育に係わる事業

事業名	北地区文化財・ウォーク事業		実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成21年度		終了：なし													
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。															
目的 (期待される効果)	・地区内外の自然、名所、旧跡等を散策し地域理解を深めるとともに世代間の交流と健康づくりを図る。															
事業内容・手段	・北地区内外にある文化財を探訪し、その担当者やボランティアガイドの方の説明を聞き、さらに興味を高める。 ・文化財をめぐりながらウォーキングすることで、参加者の交流と健康づくりを図るようにする。 ●日時 令和5年11月11日（土）午前8時30分～午後13時00分 ●コース 開会式 → 改善センター出発 → 直純寺着（説明） （出席確認） 8:40 8:50 ~9:25 → 王楽寺着（ご住職・説明） → 千手観音着（説明） 9:30~ 10:15 → 垂水公園駐車場着（説明） 徒歩 → 八十八カ所着 徒歩 10:50 11:20 → 垂水公園駐車に戻る 徒歩 ・出発着 → 改善センター着 → 閉会式 11:50 12:00 12:10 12:20															
事業費	130,186円															
対象者	北地区全住民															
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>21人</td><td></td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>9人</td><td></td></tr><tr><td>合 計</td><td>30人</td><td></td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ				年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	21人		スタッフ	9人		合 計	30人	
年 度	令和5年度	令和4年度														
一般参加者	21人															
スタッフ	9人															
合 計	30人															
住民の声（アンケートの結果等）	アンケートから（意見および感想…一部抜粋） ・北地区に住んでいながら、知らないことばかりで、大変勉強になりました。 自分が学んだことや見たことを周りの方にも紹介したいと思います。 来年もぜひ、参加させてください。 ・直純寺は、石段がきつかったです。建てられて400年のようですが、立派なものですね。 関ヶ原の戦いに関係し、宮崎城での東軍同士討ちという秘話があることを始めて知りました。その菩提寺ということでしょうか。 ・千手観音さまは、あでやかで慈悲深い、やさしい顔でした。初めてお参りをできて良かったです。 ・初めて千手観音さまを拝見しました。1本の手を25本として数えるそうで、そのユニークさと大胆さに感心しました。なるほど！と思いました。															

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	B	A	パンフレットを小学校5,6年生には、全員配布したが、小1～4年生及び中学生には配布しなかった。
	②住民の参加	A	B	今回は、初めて参加された方が、非常に多かった。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A			⑦住民の満足度	A	A	
	④各種団体との連携	A	B	自治会との連携が大きかった。	事業継続の必要性				⑦ ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 初めて大師堂の中を見学できたり、八十八カ所を見学できた							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和4年12月・事業計画）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済	
	<地域協議会からの意見（令和5年3月・事業実施報告）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[2] 地域教育に係わる事業

事業名	北地区民俗芸能伝承事業	実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：なし													
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。														
目的 (期待される効果)	・北地区総合文化祭において民俗芸能発表会を催し、伝統文化への理解を深め、保存と次世代への継承活動を行う。														
事業内容・手段	(1) 北地区総合文化祭において民俗芸能を発表する。 会 場 西部地区農村環境改善センター（多目的ホール） 内 容 北地区総合文化祭での芸能発表（保存会主催の継承活動） (2) 実施時期 令和5年11月19日（日） (3) 広 報 チラシの自治会回覧。														
事業費	44,720円														
対象者	保育園・幼稚園・小中学生・一般参加者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度（中止）</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>出演者 33 人 (来場者数 約 1000 人)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>65 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,098 人</td><td>0 人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和5年度	令和4年度（中止）	一般参加者	出演者 33 人 (来場者数 約 1000 人)	0 人	スタッフ	65 人	0 人	合 計	1,098 人	0 人
年 度	令和5年度	令和4年度（中止）													
一般参加者	出演者 33 人 (来場者数 約 1000 人)	0 人													
スタッフ	65 人	0 人													
合 計	1,098 人	0 人													
住民の声（アンケートの結果等）	(1) 踊り「糸原棒踊り」：白藤文化財愛護少年団 糸原地区の伝承減の卵、倉岡小の児童が保存会の方々のご指導によって独特の節回しの歌に合わせて踊った。 毎年、学校の運動会でも踊っているという「糸原棒踊り」…三人一組で踊る有訴な踊りで、迫力があり、動きもきびきびしていて大変良かった。 (2) 太鼓：瓜んこ太鼓クラブ 学校のクラブ活動として月2回のペースで練習しているが、その時間だけでは足りずに放課後や昼休みにも練習してきた。 みんなが心をつにして演奏できており、迫力もあり、観客からも好評だった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A			広報	⑤事業の周知	B		
	②住民の参加	A				事業の効果	⑥課題解決への作用	B	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A			⑦住民の満足度		A		
	④各種団体との連携	A			事業継続の必要性			⑦ ・ 無	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『・』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『⑦』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

〔2〕地域教育に係わる事業

事業名	地産地消食育事業		実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成21年度		終了：なし													
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。															
目的 (期待される効果)	・地区内の小学5年生を対象に、地産地消によるみそづくり体験を行う。															
事業内容・手段	(1) 地元で生産した大豆を加工して、みそが優れた食材である事を学び安心して食べられるふるさとの農産物の加工体験学習をする。 ボランティアと小学生の交流を通して小学生へまちづくりの参加を促す。 (2) 実施時期 令和6年1月18日(木) 瓜生野小学校 令和6年1月19日(金) 倉岡小学校 (3) 会場 ふるさと農産加工センター															
事業費	69,338円															
対象者	地区住民及び北地区児童															
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>瓜小 54人・倉小 33人</td><td>瓜小 32人・倉小 29人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>17人</td><td>10人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>104人</td><td>71人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ				年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	瓜小 54人・倉小 33人	瓜小 32人・倉小 29人	スタッフ	17人	10人	合 計	104人	71人
年 度	令和5年度	令和4年度														
一般参加者	瓜小 54人・倉小 33人	瓜小 32人・倉小 29人														
スタッフ	17人	10人														
合 計	104人	71人														
住民の声 (アンケートの結果等)	熟成したみそを小学生に届けたところ、大変喜んでもらい、感謝の手紙などを受け取り、スタッフ一同うれしかった。															

3 実施報告

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	A	A	
	②住民の参加	B	B			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	B	大豆は、結果的に不作だったが、改良普及センターや種苗会社や気象庁などに相談できた。	事業継続の必要性				⑦ ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・コロナ感染対策を十分にとりながら、今年度は実施できた。 ・全員初めての体験だったので、わかりやすくていねいに説明・指導を行った。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和4年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（令和5年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『・』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

〔2〕地域教育に係わる事業

事業名	イルミネーション設置事業	実施年数	14年目(H28年度中止)												
事業期間	開始：平成21年度	終了：なし													
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。														
目的 (期待される効果)	・北地区にみんなのアイデアを生かしたイルミネーションを設置し、地域の賑わいと交流の場とする。														
事業内容・手段	(1) クリスマスや年末・年始に当たる12月から新年の1月にイルミネーションを設置して地域の活性化とイメージアップに努める。 小中学校が冬休みの期間でもあるので、家族で楽しめる機会にする。 世代間の交流を深め、地域コミュニティを育む。 (2) 実施時期 令和5年12月9日(土)～令和6年1月8日(月) (PM5時～PM10時に点灯) (3) 場 所 北地域センター壁面・植込み・センター前畑の一部														
事業費	119,057円														
対象者	地区住民及び北地区児童														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>1100人</td><td>1,200人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>53人</td><td>34人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,153人</td><td>1,234人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	1100人	1,200人	スタッフ	53人	34人	合 計	1,153人	1,234人
年 度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	1100人	1,200人													
スタッフ	53人	34人													
合 計	1,153人	1,234人													
住民の声(アンケートの結果等)	鑑賞された方の感想 ・「平和への祈り」がとてもきれいでした。「平」と「和」・・・「〇」の組み合わせがグッドアイデア！でしたし、「祈り」・・・ハートのイルミネーションがきれいでしたよ。今年こそは、その願いが叶えばいいなと思いました。 ・令和6年の干支がかわいかった。 ・おばあちゃんとお母さんのかかしが本当の人間のようにびっくりした。(思わず挨拶してしまった。)														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	A	B	小学生へのアピールで、小学生の見学者が増えた。
	②住民の参加	A	A			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	B	B		事業継続の必要性				⑦ ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・令和6年の干支の卯（辰）を象ったイルミネーションを飾った。 ・ハートのイルミネーションを飾った。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済
		<地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『ⓧ』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

〔2〕地域教育に係わる事業

事業名	お楽しみクリスマス会事業		実施年数	4年目												
事業期間	開始：令和2年度		終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。															
目的 (期待される効果)	・小学校ごとに、児童とスタッフが出しものやゲームを通して交流を深めるとともに、有意義な冬休み（年末年始）づくりのきっかけとする。															
事業内容・手段	(1) 小学校ごとにクリスマス会を開き、クリスマスや正月をお祝いする。 クリスマスソングをみんなで歌ったり、魚釣りゲームをした後に、クリスマスプレゼントをもらう。…瓜生野小学校 読み聞かせやフラダンスショーやハンドベルの演奏をみんなで楽しんだ後にサンタさんからクリスマスプレゼントをもらう。…倉岡小学校 (2) 実施時期 令和5年12月22日（金）瓜生野小学校 令和5年12月23日（土）倉岡児童館 (3) 広報 小学校・児童クラブ・放課後教室 (3) 場所 北地域センター壁面・植込み・センター前畑の一部															
事業費	86,186円															
対象者	瓜生野小・倉岡小の児童															
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>瓜小151人 倉小67人</td><td>174人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>43人</td><td>40人</td></tr><tr><td>合計</td><td>261人</td><td>214人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ				年度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	瓜小151人 倉小67人	174人	スタッフ	43人	40人	合計	261人	214人
年度	令和5年度	令和4年度														
一般参加者	瓜小151人 倉小67人	174人														
スタッフ	43人	40人														
合計	261人	214人														
住民（児童）の 声（アンケートの結果等）	・プレゼントをたくさんもらってうれしかった。 ・クリスマスソングを楽しくうたえた。 ・ゲームがとても楽しかった。															

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	
	②住民の参加	A	B	保護者の参加や見学が例年より多く、賑やかだった。		⑥課題解決への作用	A	A		
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A			⑦住民の満足度	A	A		
	④各種団体との連携	B	B			事業継続の必要性				⑦ ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・参加者には、大変好評であった。 ・団体や農協や企業からたくさんのクリスマスプレゼントをいただくことができ、子供たちも喜んでいた。 ・さらに、事業の内容をアピールしていくべきである。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）>							対応	未 ・ 済
		<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）>							対応	未 ・ 済
		<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『ⓧ』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

〔2〕 地域教育に係わる事業

事業名	ふれあい朝市事業		実施年数	15年目
事業期間	開始：平成21年度		終了：なし	
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。 今までまちづくりに入れることにより、自らの手によるまちづくりに取り組みます。			
目的 (期待される効果)	・地域にふまえた農産物、加工品を中心とした地元農産物への理解・関心を高め地域住民の交流を深め地域の活性化を図る。			
事業内容・手段	(1) ふれあい朝市の実施 ・新聞や折り込みや看板、文書回覧等を通して出店募集と来客を呼びかけ、農産物や加工品等を販売する。 ・地区住民をはじめ近隣住民にも参加を呼びかけふれあい交流の場とする。 (2) 実施時期 第1回 ふれあい朝市 5月28日(第4日曜) 第2回 北のマルシェふれあい朝市 10月8日(第2日曜) ※大雨で中止 第3回 北のマルシェふれあい朝市 12月10日(第2日曜)			
事業費	320,866円			
対象者	地区内及び地区外の住民			
参加者数 (内訳)	年度	令和5年度	令和4年度	
	一般参加者	①450 ②0 ③700人	600人	
	スタッフ	52人	22人	
	合計	1,202人	622人	
	※事業内容に応じて男女別や年代別データ			
住民の声(アンケートの結果等)	<来場者の声> ・久しぶりに「ふれあい朝市」に来てみたが、とても盛り上がっていたのでびっくりした。 ・とても良い雰囲気です、楽しく買い物できました。野菜など、新鮮で市価よりもかなり安かった。 ・開場前から並んで待っている人もいて、早朝からとても活気がありました。 ・楽しく見て回ることができたし、ふだん会えない人に会うこともできたので、すごくうれしかった。また是非来たいです。 ・ステージ発表のバンド演奏やダンスがとても良かった。特に子どもたちのダンスは新鮮だったし、生き生きしていてこちらも若返るようでした。 ・天気が良くて暖かくて、何だか春か秋の朝市のような感じでした。 ・緑の募金でレモンをもらうことができ、大喜びしました。立派な実があるように、丹精に育てます。ありがとうございました。			

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	A	A	
	②住民の参加	A	A		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	B	インターネットを活用するようになった。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A			⑦住民の満足度	A	A	
	④各種団体との連携	B	A	自治会長への依頼（要請）が弱かった。	事業継続の必要性			⑦ ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・来場者は予想以上に多かった。宮日折込チラシ、回覧板添付のチラシ、近隣ゴミ集積所のラミネートポスター、看板等の効果であると思われる。（地区外からの来場者も多かった。） ・「ふるまい」として焼きいもを提供したが、大変好評であった。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）>						対応	未 ・ 済
		<意見への対応>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）>						対応	未 ・ 済
		<意見への対応>							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『ⓧ』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『⓪』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[2] 地域教育に係わる事業

事業名	特産物育成事業		実施年数	3年目
事業期間	開始：令和3年度		終了：なし	
地域魅力発信プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。 今までまちづくりに入れることにより、自らの手によるまちづくりに取り組みます。			
目的 (期待される効果)	・北地区のオリジナル産品を作り出す。 ・産地を形成し、ブランドを確立する。			
事業内容・手段	(1) 具体的には、キクイモと下仁田ネギの2品を北地区の特産物にできるように栽培を広めて行く。 (2) 常に付加価値を加えて、収益を上げられるように工夫・改善し、地域を巻き込んだ取り組みにする。 実施時期：令和5年度3月～12月 場 所：垂水・チェリーロード付近まちづくり圃場 広 報：地域振興運営委員・チラシにて一般募集（農場体験）			
事業費	30,000円			
対象者	地域振興部会委員・一般募集			
参加者数 (内訳)	年 度	令和5年度	令和4年度	
	一般参加者	8人	10人	
	スタッフ	延 42人	40人	
	合 計	延 50人	50人	
	※事業内容に応じて男女別や年代別データ			
住民の声（アンケートの結果等）				

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	B	A	調理法等についての説明が不十分だった。
	②住民の参加	B	B		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A			⑦住民の満足度	B	B	
	④各種団体との連携	B	B		事業継続の必要性			⑦ ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・販売による売り上げは約 15,000 円であった。 ・スタッフおよび関係者に試食をしてもらったが、大変好評であった。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）>						対応	未 ・ 済
		<意見への対応>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）>						対応	未 ・ 済
		<意見への対応>							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『ⓧ』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません

3 実施報告

〔2〕その他の事業

事業名	まちづくり推進事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了：なし													
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。 今までまちづくりに入れることにより、自らの手によるまちづくりに取り組みます。														
目的 (期待される効果)	・まちづくり事業を円滑に推進していくために環境整備を図る。 ・まちづくり推進委員会に必要なリース車輛、任意保険を継続維持する。														
事業内容・手段	(1) ・業務処理が部員、事務局員の自己負担にならないように、まちづくりの広報活動及び部員、事務局員の移動が無理なくできるように、リース車を維持する。 ・まちづくり車を青色パトロール仕様にした。 ・パソコン購入により事務作業がスムーズに行えた。 (2) 実施時期 令和5年4月～令和6年3月														
事業費	596,136円														
対象者	まちづくり事務局・自治会・自治公民館事務														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>0人</td><td>0人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>2人</td><td>2人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>4人</td><td>4人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	0人	0人	スタッフ	2人	2人	合 計	4人	4人
年 度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	0人	0人													
スタッフ	2人	2人													
合 計	4人	4人													
住民の声（アンケートの結果等）	・リース車輛を利用した下校見守り隊の支援活動がよかった。 ・配布物を迅速に配達してもらい助かった。（自治会長より）														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		広報	⑤事業の周知	A	A	
	②住民の参加	A	A			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A		事業継続の必要性				⑦ ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・まちづくり事業を円滑にすすめることができた。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[2] その他の事業

事業名	まちづくり広報活動事業		実施年数	12年目
事業期間	開始：平成24年度		終了：なし	
地域魅力発信 プランとの関連	(1) 若者もみんな参加でまちづくりをしよう！ 今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民らの手によるまちづくりに取り組みます。 (2) 若者が参加できる仕組みづくり 若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。 (3) 持続的なイベントの開催 まちづくりの最初の一步として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。 今までまちづくりに入れることにより、自らの手によるまちづくりに取り組みます。			
目的 (期待される効果)	・住民がまちづくりを身近に感じ、関心を持つために広報委員会を設け、広報委員の目でとらえたまちづくり事業の様子を「きたまちだより」として作成する。			
事業内容・手段	(1) 4名の広報委員と事務局2名でイベントや行事の写真取りや取材を分担し、その後編集会議を数回開くようにしている。 (2) 自治会を通して、会員世帯に配布する。また、公共機関に置いてもらって自由に取ってもらっている。(広報誌：10月・3月年2回発行)			
事業費	348,900円			
対象者	北地区自治会加入世帯			
参加者数 (内訳)	年度	令和5年度	令和4年度	
	一般参加者	4人	4人	
	スタッフ	2人	2人	
	合計	6人	6人	
※事業内容に応じて男女別や年代別データ				
住民の声（アンケートの結果等）	・地域出身者の記事を読み、身近に感じられ内容に興味がありました。 ・特にクロスワードパズルを解いて景品をもらえるのを楽しみにしています。 ・お店の紹介も大いに参考になります。(毎回、楽しみで以前よりよく見るようになりました。			

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A		事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	
	②住民の参加	A	A			⑥課題解決への作用	A	A		
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A			⑦住民の満足度	A	A		
	④各種団体との連携	A	A			事業継続の必要性				④有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・北地区の食事処や有名人を特集して載せ、より多くの住民に読んでもらえるよう工夫した。 ・防災関連の記事も、住民にアンケートを実施し、その意見を載せることができた。 ・読みやすさやニーズに応える工夫をした。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和5年12月・事業計画）>							対応	未 ・ 済
		<意見への対応>								
		<地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）>							対応	未 ・ 済
		<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄は記載する必要はありません。

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	子ども見守り事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	120,000	
2			
3			
4	合計 (A)	120,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	68,735	お茶代 1,416 円×4 ケース (5,664 円) 2,880 円×3 ケース (8,640 円) ブルゾン代 (冬長袖) 41,305 円 3,052.5 円×10 枚 (30,525 円) 版代 10,780 円×1 (10,780 円) 下校時見守り 車輦用マグネットシート 597.3 円×20 枚 (11,946 円) 菓子代 ¥1,180 (部会協議終了後の作業用)
5	役務費		
6	使用料 及び賃借料		
7	合計 (B)	68,735	

収支差額 (A) - (B)	51,265
----------------	--------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	防災訓練事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	110,000	
2			
3			
4	合計（A）	110,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	16,992	防災訓練時お茶(4団体) 緑茶 59円×288本 (16,992円)
5	委託料		
6	役務費		
7	使用料 及び賃借料		
8	備品購入費		
9	合計（B）	16,992	

収支差額（A）－（B）	93,008
-------------	--------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	北地区青色パトロール推進事業
-----	----------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	40,000	
2			
3			
4	合計（A）	40,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費		
5			
6	委託料		
7	役務費		
8	使用料 及び賃借料		
9	合計（B）	0	

収支差額（A）－（B）	40,000
-------------	--------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	ふくしまつり事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	120,000	
2			
3			
4	合計 (A)	120,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費	36,790	アンケート回答者への品代(200名分) 36,790円
3	旅費		
4	需用費	18,549	飲み物代 ①②③合計 11,520円 ①連携部会・運営委員会 120円×24本×2回・5,760円 ②ボランティア 120円×48本……5,760円 腕章代(20個) 7,029円
5	役務費	5,710	行事保険 ①②合計 5,710円 ①28円×200人……5,600円 ②振込手数料 110円×1回……110円
6	委託料		
7	使用料 及び賃借料		
8	備品購入費		
9	合計 (B)	61,049	

収支差額 (A) - (B)	58,951
----------------	--------

(様式第 7 号)

別 収 支 計 算 書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事 業 名	福祉推進研修事業
-------	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	基礎交付金	150,000	
2			
3			
4	合計 (A)	150,000	

(2) 支出の部

番号	科 目	金 額	内 訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	5,760	お茶代 5,760 円 (120 円×48 本)
5	役務費	1,035	行事保険 ①②合計 1,035 円 ①28 円×35 人……………980 円 ②振込手数料 110 円×1 回……………55 円
6	委託料		
7	使用料 及び賃借料	44,000	バス借り上げ料 44,000 円 (小型 44,000 円×1 台)
8	合計 (B)	50,795	

収支差額 (A) - (B)	99,205
----------------	--------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	子育て支援事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	60,000	
2			
3			
4	合計（A）	60,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費		
3	需用費		
4	役務費	780	行事保険 ①②合計 780 円 ①28 円×15 人＝420 円＋140 円……………560 円 ②振込手数料 110 円×2 回……………220 円
5	委託料		
6	使用料 及び賃借料		
7	備品購入費		
8	合計（B）	780	

収支差額（A）－（B）	59,220
-------------	--------

(様式第 7 号)

別 収 支 計 算 書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事 業 名	学習支援事業
-------	--------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	基礎交付金	40,000	
2			
3			
4	合計 (A)	40,000	

(2) 支出の部

番号	科 目	金 額	内 訳
1	賃金		
2	報償費	27,040	ボランティア学生謝礼(QUO カード 26 名分)……27,040 円
3	需用費	6,462	お茶代……2,832 円 (59 円×48 本) 消耗品代 (ホワイトボード等) ……………3,630 円
4	役務費	2,295	行事保険 ①②合計 2,295 円 ①28 円×80 人 (2 日分) ……………2,240 円 ②振込手数料……………55 円
5	委託料		
6	使用料 及び賃借料		
7	備品購入費		
8	合計 (B)	35,797	

収支差額 (A) - (B)	4,203
----------------	-------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	健康ウォーキング事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	60,000	
2			
3			
4	合計（A）	60,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	47,464	スポーツドリンク代 5,664 円（118 円×48 本） ウォーキングポール スティック 41,800 円 9,900 円×2=19,800 円（税込） 11,000 円×2=22,000（税込）
2	役務費		
3	委託料		
4	使用料 及び賃借料		
5	備品購入費		
6	合計（B）	47,464	

収支差額（A）－（B）	12,536
-------------	--------

(様式第 7 号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	北地区文化財・ウォーク事業
-----	---------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	150,000	
2			
3			
4	合計 (A)	150,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	14,856	お茶代 連携部会 120 円×24 本×2 回……………5,760 円 文化財・ウォーク 軽食代 ……………6,696 円 お寺お礼 ……………2,400 円 (1,200 円×2 ヶ 寺)
5	役務費	7,530	行事保険 ①②合計 1,230 円 ①28 円×40 人……………1,120 円 ②振込手数料 110 円×1 回……………110 円 ハガキ代・封書切手代 6,300 円
6	委託料		
7	使用料 及び賃借料	107,800	バス借り上げ料 107,800 円 (小型 53,900 円×2 台)
8	備品購入費		
9	合計 (B)	130,186	

収支差額 (A) - (B)	19,814
----------------	--------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	北地区民俗芸能伝承事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	100,000	
2			
3			
4	合計 (A)	100,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費	23,435	講師料 3,000 円×2 団体……………6,000 円 子ども出演者 プレゼント代 17,435 円
3	旅費		
4	需用費	8,935	お茶代 ①②合計 8,935 円 ①大人 120 円×48 本……………5,760 円 ①子供 30 本（税込）……………3,175 円
5	役務費	12,350	行事保険 ①②合計 2,350 円 ①28 円×80 名……………2,240 円 ②振込手数料 110 円×1 回……………110 円 クリーニング代 5,000 円×2 団体……………10,000 円
6	委託料		
7	使用料 及び賃借料		
8	備品購入費		
9	合計 (B)	44,720	

収支差額 (A) - (B)	55,280
----------------	--------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	地産地消食育事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	110,000	
2			
3			
4	合計 (A)	110,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	49,468	お茶代 120 円×24 本……………2,880 円 大豆種代……………11,000 円 大豆代……………11,900 円 米麴代……………17,500 円 塩代……………2,983 円 樽袋代……………220 円 消耗品……………1,493 円 味噌詰め用手袋……………1,492 円
2	役務費	3,870	行事保険 ①②合計 670 円 ①28 円×10 名×2 回……………560 円 ②振込手数料 110 円×1 回……………110 円 割烹着クリーニング代……………3,200 円
3	使用料 及び賃借料	16,000	大豆畑機械使用料(1 年間) 16,000 円
4	合計 (B)	69,338	

収支差額 (A) - (B)	40,662
----------------	--------

(様式第 7 号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	イルミネーション設置事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	160,000	
2			
3			
4	合計 (A)	160,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費		
3	需用費	58,082	飲み物代 ①②③合計 15,282 円 ①連携部会 120 円×36 本×2 回…… 8,640 円 ②運営委員会 132.84 円×25 本………3,321 円 ③ボランティア 132.84 円×25 本………3,321 円 電飾代 42,800 円
4	役務費		
5	委託料	60,000	イルミネーション設置・撤去一式 60,000 円
6	使用料 及び賃借料	975	イルミネーション電気代 975 円
7	備品購入費		
8	積立金		
9	合計 (B)	119,057	

収支差額 (A) - (B)	40,943
----------------	--------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	お楽しみクリスマス会事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	90,000	
2			
3			
4	合計 (A)	90,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費	54,980	講師料：5,000 円×1 名、3,000 円×1 名 音響お礼菓子代：1,880 円×1 名 クリスマス会のプレゼント代 ①②合計 45,100 円 ①瓜生野小 194 円×150 名分……………29,100 円 ②倉岡小 200 円×80 名分……………16,000 円
3	旅費		
4	需用費	31,206	お茶代 ボランティア 他 120 円×24 本……………2,880 円 ジュース代 瓜・倉 児童 230 名分(税込)……………25,336 円 クリスマス用袋代……………1,560 円 消耗品……………1,430 円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料 及び賃借料		
8	合計 (B)	86,186	

収支差額 (A) - (B)	3,814
----------------	-------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	ふれあい朝市事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	450,000	
2			
3			
4	合計 (A)	450,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	報償費	24,818	出演料：10,000 円×1 団体、10,000 円×1 団体 フラダンスチーム出演キッズへのプレゼント代 108.08 円×25 名(ジュースとギフト) ……2,702 円 ダンスチーム出演キッズへのプレゼント代 105.8 円×20 名(ジュースとギフト) ……2,116 円
2	需用費	77,584	お茶代 ①②合計 14,400 円 ①運営委員会 120 円×72 本 ……8,640 円 ②朝市(2 回分) 120 円×48 本 ……5,760 円 ※前日準備・当日ボランティア含む 朝市軽食代(2 回分、10 月中止でのキャンセル不可分) 5 月-15,000 円、10 月-9396 円、12 月- 13,801 円 折込チラシ用 B4 用紙 5000 枚 ……9,744 円 ラミネート他 ……9,108 円 消耗品 6,135 円
3	役務費	72,264	行事保険(3 回分) ……1,510 円×3 回 ……4,530 円 チラシ折込・配送料(3 回分) ……19,470 円×3 回 ……58,410 円 ハガキ代・封書切手代 9,324 円
4	委託料	145,200	警備費(3 回分) 5 月-24,200 円、10 月-12,100 円、12 月- 24,200 円 朝市チラシ印刷代 ……55,000 円 朝市案内立て看板リニューアル代 ……29,700 円
5	使用料 及び賃借料	1,000	プロパンガス代 1,000 円
6	合計 (B)	320,866	

収支差額 (A) - (B)	129,134
----------------	---------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	特産物育成事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	80,000	
2	雑収入	15,499	売上金
3			
4	合計 (A)	95,499	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	10,000	肥料代……………3,300 円 消石灰代（2 袋） ……2,200 円 下仁田ネギ苗代 ……4,500 円
2	役務費		
3	委託料		
4	使用料 及び賃借料	20,000	畑借料・機械使用料(1 年間) 20,000 円
5	備品購入費		
6	合計 (B)	30,000	

収支差額 (A) - (B)	65,499
----------------	--------

(様式第 7 号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	まちづくり推進事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	235,000	
2	繰越金	420,502	
3	雑収入	42	預金利息
4	合計 (A)	655,544	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	144,256	ガソリン代（年間）……………32,666 円 事務用品……………90,742 円 消耗品……………20,848 円
2	役務費	118,580	自動車総合保険……………82,880 円 ハガキ代・切手代……………35,700 円
3	委託料	95,700	北地区リーフレット印刷代 95,700 円
4	使用料 及び賃借料	237,600	車リース料 第 7 回～第 18 回……………237,600 円（税込）
5	備品購入費		
6	合計 (B)	596,136	

収支差額 (A) - (B)	59,408
----------------	--------

(様式第7号)

事業別収支計算書

北地域自治区

北地区振興会（まちづくり推進委員会）

事業名	まちづくり広報活動事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	70,000	
2	繰越金	360,000	
3			
4	合計 (A)	430,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費	20,000	きたまちだより R5 年度前期 10 月号 クロスワード賞品代 …… 20,000 円
3	需用費		
4	役務費		
5	委託料	328,900	きたまちだより R5 年度前期 10 月号印刷代 … 176,000 円 きたまちだより R5 年度前期 3 月号印刷代 … 152,020 円 きたまちだより R5 年度前期 3 月号印刷代振込料 … 880 円
6	使用料 及び賃借料		
7	備品購入費		
8	合計 (B)	348,900	

収支差額 (A) - (B)	81,100
----------------	--------

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和6年4月30日

宮 崎 市 長 殿

主たる事務所の所在地 宮崎市大字瓜生野3909-40

名 称 北地区振興会

(まちづくり推進委員会)

代 表 者 の 氏 名 会 長 長 友 安 弘

電 話 番 号 41-3512 (FAX 兼用)

令和5年4月21日付で交付承認のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については決算において914,042円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますので届け出ます。

添 付 書 類

令和5年度収支決算書

(様式第8号)

令和5年度 地域まちづくり推進委員会への意見書〔事業実施報告〕

北地域自治区地域協議会
会長 緒方正和



令和5年度の北地域自治区の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算について、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていたので、承認いたします。なお、承認に際し、下記の意見がありましたので、対応を検討いただきますようお願いいたします。

記

1. 総括

決算総額のうち支出が3分の2で、3分の1が繰越となっている。、計画した事業の歳出を適正に行って欲しい。

さらなる地域の活性化と発展のために、より幅広く情報を収集し、連携を強めてください。

2. 事業の推進体制

4部会と広報委員会を中心とした体制で取り組んでいました。今後も各部会委員が積極的に取り組めるように、工夫を加えてほしい。

3. 各事業への意見（意見のある事業のみ記載）

特になし

4. その他

特になし